

子どもたちに居心地の良い家庭・学校・地域って？

ともに学び、ともに考えよう

子どもたちのいじめや不登校、学力低下、学級崩壊、犯罪行為…、子どもを巡って様々な問題が指摘され、その対策が叫ばれますが、なかなか解決の糸口が見出せないまま、子どもたちは精神的な飢えの中にいるのではないかと感じられます。



今、大人にできることは、親の立場にある人、先生方、地域の人たちが気持ちをあわせて、子どもたちの心に寄り添い、受け止めていくことではないでしょうか。子どもたちに居心地の良い家庭・学校・地域をつくっていくために、ともに学び、ともに考えませんか。

●期間 11月6日～2月19日

毎回金曜 18:30～20:30 全6回

●会場 菅生分館 ●無料

●対象 保護者・教職員・地域住民や関心のある人

第1回

11月6日(金)

18:30～20:30

今、教育に
何が起きているのか
講師 尾木直樹
(教育評論家・法政大学教授)

第2回

11月27日(金)

18:30～20:30

私たち大人の
「学校観」を問い直す
講師 福田誠治
(都留文科大学副学長)

申込み 10月16日
(金)午前10時から
電話で菅生分館へ
(先着 40人)

第4回

1月22日(金)

18:30～20:30

自分自身の子ども時
代を振り返ろう
講師 大枝奈美
(アトリエウェイブ代表)

第5回

2月5日(金)

18:30～20:30

子どもたちの心に、
何が起きているのか
講師 北村年子
(ルポライター)

第3回

12月11日(金)

18:30～20:30

学校・地域・家庭の
協働の可能性を探る
報告 杉並区立井草中
学校の学校支援本部

第6回

2月19日(金)

18:30～20:30

子どもの心に
寄り添うために
講師 西野博之
(フリースペースたまりば代表)

主催 川崎市教育委員会
共催 菅生中学校区地域教育会議

申込み・問合せ 川崎市宮前市民館菅生分館

〒216-0015 川崎市宮前区菅生5-4-11

TEL 044-977-4781 FAX 044-976-3450

「子どもたちの居心地の良い家庭・学校・地域って？ ともに学び、考えよう」 学習プログラム

第1回 11月6日 (金) 18:30～ 20:30	■ 今、教育に何が起きているのか 多くの大人たちは子どもに何が起きていると漠然と感じていますが、「実際のところはよくわからない」というのが実感ではないでしょうか。子どもの日常の中で大きな部分を占める「教育」にどのような変化が起きているかを尾木直樹さんにうかがい、みんなで教育を考える第1歩とします。 尾木直樹さん（教育評論家・法政大学教授）は、子どもと教育の現場に密着した調査・研究に取り組むとともに、全国での講演や執筆活動、マスメディアでの発言を通して、教育について多くの提言をされています。最近のご著書では『仲間市民としての子ども』とともに日本の再建を」を今後のキーワードとしてあげておられます。
第2回 11月27日 (金) 18:30～ 20:30	■ 私たち大人の「学校観」を問い直す 「学校」を考える時、郷愁とともに浮かぶ「自分の学校体験」が固定的なイメージとなりがちです。「格差」「競争」をなくし、「平等」「個性」を尊重するフィンランドの教育の理念や学校現場の様子を福田誠治さんにお聞きし、フィンランドを鏡として、日本の学校の可能性を考える手掛かりとします。 福田誠治さん（都留文科大学副学長）のご専門は比較文化論、「人権確立のための教育実践」を研究テーマとする中で、フィンランドの教育と出会い、たびたびフィンランドを訪問されています。日本の教育制度やその歴史を踏まえながら、フィンランド教育の教材や教授法を越えて、教育理念・学力観・教員養成などについて探求されています。
第3回 12月11日 (金) 18:30～ 20:30	■ 学校・地域・家庭の協働の可能性を探る 杉並区立井草中学校の「学校支援地域本部」の活動状況を、同校校長 寺田節子さんと、同校支援本部”〇（えん）”会長・辻田浩和さん、委員・江畑洋子さんにお聞きします。井草方式のキーワードは「学校と地域の双方向性」。「地域が学校や子どものためにできること」、「学校や子どもが地域のためにできること」の双方向で活動しています。 「学校支援地域本部」とは、各地で行われていた学校と地域・家庭の協働の取り組みをさらに発展させ、組織的なものとしたものです。文部科学省は平成20年度に「学校支援地域本部」を予算化し、全国の学校に設置の公募を行いました。
第4回 1月22日 (金) 18:30～ 20:30	■ 自分自身の子ども時代を振り返ろう～誰でも昔は子どもだった 当たり前のように考えている「子どもらしさ」「中学生らしさ」「大人らしさ」に縛られることなく、大人と子どもが「ひと」と「ひと」として向き合うことはできるのでしょうか。大枝奈美さんとともに、自分自身の子ども時代を振り返る体験を通して、自分の中の「子どもの気持ち」を再発見してみましょう。 大枝奈美さん（アトリエウェイブ代表）は、ご自身が「天職」というファシリテーターとして、地域づくりやまちづくりの分野を中心に、ワークショップや講座などを手がけておられます。平成18年から3年間、菅生中学校区地域教育会議の子ども会議の中学生による、「まちづくり」をテーマとしたワークショップに関わってこられました。
第5回 2月5日 (金) 18:30～ 20:30	■ 子どもたちの心に、何が起きているのか 子どもの犯罪行為の陰に、子どもの心に加えられた深い傷があることに目を向けてみましょう。若者による野宿者襲撃事件の取材の中から見えてきた、多くの子どもに共通している「自分の存在を価値あるものと思えない子どもたちの姿」について、北村年子さんにお話いただきます。 北村年子さん（ルポライター）は、1995年の「道頓堀川ホームレス殺人事件」の加害者若者の心の声に分け入り、以後「いじめ」や「ホームレス問題」について取材・執筆・講演活動を行うとともに、主に子どもを対象とした「自己尊重ワークショップ」に精力的に取り組んでおられます。「ホームレス問題の授業づくり全国ネット」共同代表。
第6回 2月19日 (金) 18:30～ 20:30	■ 子ども心に寄り添うために～今、私たちにできることは？ 大人からの一方的な思いではなく、子どもが自ら考え、判断し、生きていく力をつけていくことができるように、大人はどう関わったら良いのでしょうか。これまでのままとめとして、育ちの中で子どもたちが抱える困難や迷いに一貫して寄り添ってこられた西野博之さんを招いて、みんなで話し合ってみましょう。 西野博之さんは、不登校の子ども、高校中退の若者の居場所づくりのために、約20年前に川崎市高津区に「フリースペースたまりば」を開設、川崎市子どもの権利条例制定にも関わってこられました。川崎市子ども夢パークのオープン時に、同所内に公設民営の、不登校児のための「フリースペースえん」を開設。平成18年度から夢パーク所長。

※申し込みの際にお伺いする住所・氏名・連絡先などは川崎市個人情報保護条例により、事業実施の目的に限り使用します。